

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



私たちは、医療福祉施設を中心に設計を行っています。クライアントの想いを叶え、それが社会貢献につながる設計を目指しています。

医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町 10 番地

TEL:075-211-7277 FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



よいケア文化の土壌をつくる
VIPですすめるパーソン・センタード・ケア【第2版】
ドーン・ブルツカー、イザベル・レイサム／著
水野 裕／監訳 中川経子・村田康子／訳
認知症ケアの理念「パーソン・センタード・ケア」。
調査研究で明らかになった、よいケア文化の重要な特徴7項目を新たに示した、実践に役立つガイドブック！
B5判248頁 定価2400円＋税
VIPス
フレームワーク
付き

”輪”を”和”でつなぐ
「島はち」診察室100のものがたり
子育てに悩むあなたに読んでほしい本
障害といわれる個性をもった子どもたち、その家族とのさまざまな出会いと別れを大切に抱きしめ、小児科医師である著者の模索は果てしなく続く！ A5判200頁 定価2000円＋税
島田療育センター
はちおうじ所長・
小児科医師
小沢 浩／著

ごちゃまぜで社会は変えられる
地域づくりとビジネスの話
濱野将行



地域サロン、コワーキングスペース、シェアハウス、地域食堂、グループホーム。徒歩2分圏内に6軒の空き家を活用して挑んだ、作業療法士が全世代が活躍する街を作る話。
A5判258頁 定価1800円＋税
一般社団法人えんがお
濱野将行／著



クリエイツかもがわ
CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <https://www.create-k.co.jp>
TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)

つとばい



私たちは、^{はたち}20歳になりました！

今年成人をむかえたなかまのみなさんに、抱負を寄せていただきました。

★増田光良さん（社会福祉法人とんぼ福祉会 第2とんぼ作業所）★

ぼくは毎日、第2とんぼさぎょうしょで、パン作りとチョコレートさぎょうの仕事をしています。メロンパンと紅茶メロンパンを作っています。きれいに作れたときが、とてもうれしいです。ぼくが作ったパンをお客さんに、ぜひ食べてもらいたいです。お給料がもらえてとてもうれしいです。たまにお母さんにおすしをごちそうしてあげています。これからも、たくさん仕事をがんばって、お給料がたくさんほしいです。

A black and white photograph of a man in a dark suit, white shirt, and striped tie. He is wearing a white surgical mask and making a peace sign with his right hand. He is standing next to a large white banner. The banner has vertical Japanese text and two small illustrations at the bottom. The background is dark and out of focus.

祝
川口市は
たちの集い



★なおまさ小川尚将さん（社会福祉法人みぬま福祉会 川口太陽の家）★
毎日休まずに元気に太陽の家でなかまたちと仕事をしたい！
電車に乗って日本各地の動物園や水族館に行きたい！



★田邊千夏^{ちなつ}さん（社会福祉法人よさのうみ福祉会 みねやま作業所）★

私は作業所で下請け（組立て作業や箱詰め）をがんばっています。絵を描いたり、貼り絵などが得意で楽しいです。車に乗ることが大好きで遠足に出かけたいです。これからもみんな、よろしくお願いします。



★^{ひろみ}坂梨浩美さん（社会福祉法人麦の芽福祉会 福祉型専攻科・大学 ユーススコラ鹿児島）★

12月に私は「はたち」になりました。まだ実感はもてていませんが、これから10代のときとは違った生活ができるのだと思うと、不思議な気持ちになります。私はまだユーススコラ鹿児島の学生です。今から少しずつ自分のやりたいことを探しながら、毎日一緒にいてもあきることのない個性ゆたかななかまたちと喜怒哀楽を共にし、新しいことをたくさん学び、吸収していきたいと思います。これから少しずつ社会の一員となれるように精進していきます。

※P.34に、成人をむかえたみなさんへの職員からのメッセージを紹介しています。

●特集● 相談支援はいのちと暮らしを守るセーフティネットの要！

いまこそ求められる、本来の社協としての仕事	山口 浩次	10
ソーシャルワークが社会のなかで果たす役割を考える	坂田 徹	14
コロナ禍における生活困窮者支援の現状	藤原 望	18
生活保護ソーシャルワーカーが専門性を発揮できる環境を	仲野浩司郎	22
セーフティネットとしてのケースワーク支えるために	笹原 勝治	26
〈現場からの報告をうけて〉セーフティネットと相談支援	志藤 修史	30

●トピックス●

成人の集い 職員さんからのメッセージ		34
阪神淡路大震災から27年・慰霊のつどい	高倉 弘士	36
福祉実践と若者——いま、危機のなかにいる若者たち（前編）	山本 耕平	38
【PHOTO】ズームイン！ きょうされん大阪支部		42

●連載●

WORK WORK——わくワク——

ピンク色の素朴な優しい風合いの草木染め	いなりやま福祉会満天の星	46
ミリタンが実現するフランスの福祉		
生活保護をきっかけに福祉を届ける	安發 明子	48
かさねあい、はぐくみあう保育実践		
挑戦と経験をととして、大人も子どもも成長できる保育園	岩尾 亮太	50
夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～		
優しい気持ちの物語	大谷木優子	54

JOB & ACTION 全国福祉保育労働組合（12）

「22春闘 福祉職場で働くみんなの要求アンケート」組合員の切実な声		58
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（12）		

保育運動に関わって50年	杉山 隆一	60
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（32）	水野阿修羅	62

相談室の窓から

「ふつう」という縛りからの解放を②	青木 道忠	64
育つ風景		

30年前につかんだ子どもの悲しみを思い続ける	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい		

施設建設委員長として（7）	清田 廣	68
映画案内 『少年の君』	吉村 英夫	70

現代の貧困を訪ねて 元旦に夜まわりで寝袋を配る	生田 武志	72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		

富士額ならぬ富士唇、じゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



歴史に学び自らを振り返り 困難への方針をもつ

社会福祉法人みぬま福祉会 理事長 高橋 孝雄

一九七三年、名古屋で学生をしていた頃、ちょうど障害のある子どもの教育権保障のとりくみが全国的に広がっていました。学校に行けない子がいることを初めて知り、日曜日に集まった子どもたちと遊ぶ活動に参加しました。昭和三区日曜学校と言います。

子どもたちの変化を記録し、親たちに伝えたと親たちは喜び、感謝してくれました。「一緒に運動を進めている対等な関係なのに感謝するのはおかしい」などと青年らしく反応する学生たちをやさしくいしながら、親たちは署名集めや学習、行政交渉にとりくんでいました。ずーっと硬い表情をしていたみもちゃんが笑ったり、足が不自由だった和夫くんが初めて手をつないで歩いたり……そんなことを喜びあいながら過ごした青春時代でした。「子どもたちの発達の事実を運動の力にする」「実践と運動は両輪」「子どもが変われば親が変わる、親が変われば社会が変わる」「日曜学校はみんなの発達の場」など、今につながる大切な視点が次々に発見されていました。

一九七七年に学校を卒業し、埼玉県の入所施設に就職しました。ゼミの先生だった大泉博氏ひろしは「施設は半分涙だ」と言っていました。施設は、まだ収容施設と言われていた時代のすがたを色濃く残し、時代の限界のなかにありました。内にも外にも差別ということが強く意識され、みんながそれぞれに悩みながら、いくらかでもいいとりくみができるように模索していました。先進的な施設やとりくみに学び、全障研サークルをつくったり、組合の準備会をつくったり、学習と仲間をつくる活動が多くの施設でとりくまれるようになっていました。



たかはし たかお

群馬県出身。日本福祉大学社会福祉学部2部卒業。

社会福祉法人みぬま福祉会理事長、社会福祉経営全国会議副会長。

そして一九七九年、養護学校の義務化が実現しました。施設のなかにも学校ができて、子どもたちが学校に通いはじめました。権利を勝ち取った子どもたちが初めて学校に行く日の誇らしく輝いていたすがたが、今でもあつく胸に残っています。

みぬま福祉会は、さいたま市（当時、浦和市）にできた養護学校の初めての卒業生の進路保障の場として、一九八四年に結成されます。だれも差別しないことを理念の中心に掲げました。愛知のゆたか福祉会からはじまった障害者の労働権保障の運動は、一九七七年に「きょうされん」を結成、共同作業所づくり運動は八〇年代に、全国に野火のように広がり現在につながっています。前向きで手ごたえのある時代だったと振り返っています。

今、競争と格差を是とする新自由主義の政策のなかで、社会には孤立と疎外が広がっています。社会福祉は市場化のなかで本質的なやりがいを失うことで、内部から崩壊しかねない危機に直面しています。

私たちには、福祉が国民の権利の向上を目的とした公的事業だということを、あらためて明らかにして進歩させる責任があります。

二〇二〇年四月に結成された「社会福祉経営全国会議」は、分野を超えた共通を通してその役割を担おうとしています。ヒューマニズムの立場に立ち、差別をなくし、人間のしあわせや発達への共感を軸にして、事業・実践を進める共同を大きく広げたいと願っています。

あらためて考えたい、**相談支援**の役割

コロナ禍における事業経営や生活を支える支援のひとつとして、「生活福祉資金の特例貸付（以下、特例貸付）」が大きな注目を集めてきました。社会福祉協議会が実施する「生活福祉資金」をコロナ禍における特例として位置づけ、要件を緩和して活用が促されてきました。本来、「生活福祉資金」は継続的な相談支援が前提であり、貸付をきっかけに日々の生活を改善し、社会参加の促進をはかることが目的です。しかし、特例貸付の申し込みが社協や生活困窮者支援窓口に殺到するなかで、貸付の要件はどんどん緩和され、「とにかくはやく送金すること」が目的となっていきました。本来の役割である相談支援、ソーシャルワークが制限されていく状況に、多くの職員が葛藤を抱えました。

コロナ禍が長引くなか、特例貸付の実施期間と貸付期間はたびたび延長され、一月末時点では、緊急小口資金として二〇万円、総合支援資金として一八〇万円、あわせて最大二〇〇万円の借り入れが可能となっています。そしていま、上限まで借り切ってしまった人たちが増えてきています。

家庭訪問による相談支援が位置づけられている生活保護現場では、コロナ禍で家庭訪問が制限されたことによるさまざまな課題ができています。言葉にならない、あるいは本人も気づいていない

ニーズをキャッチし、信頼関係のうえで一緒に課題の改善にとりくんでいく大切さが、今回の特集のなかでもあらためて明らかになっています。いっぽうで、ニーズをキャッチし適切な支援につなげていこうとすればするほど、そのための事務処理が膨大となり、現場はジレンマを抱えざるを得ない状況です。

国は、言葉としては「寄り添い」や「伴走」が大事と言いながらも、実際の政策としては、予算カットとそれによる相談支援職の非正規化、就労指導や監視の役割を強化させ、専門職が相談者に寄り添える、伴走できる余裕をうばってきました。しかし、特集のなかで志藤さんも指摘されているとおり、困ったときに相談できる場所や人がいること、信頼できる人がいること、一緒に悩み考えてくれる人がいることは、人が生きていくうえで不可欠なセーフティネットです。経済的な支援やさまざまなサービスももちろん大切ですが、人とのつながりがあるから、しんどい状況のなかでも前を向くことができるのではないのでしょうか。

そうした人とのつながりによるセーフティネット、相談支援の意義が、特例貸付の状況を見ても、生活保護現場を見ても、政策的に軽視されている気がしてなりません。今号では、セーフティネット、ひいては社会を築いていくうえでの相談支援の役割や大切さを、現場の報告から考えてみたいと思います。

(編集主任)